

科目名	先端医療施設臨床実習			分野・必選別・ 単位数	専門実習科目	自由	8単位
担当教員	◎教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一 准教授 大松将彦					授業方法	実験・実習
課程	博士前期	配当年次	2年	配当学期	前期	配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース
授業の概要	放射線科領域の各分野において近年、開発された最先端医療機器のなかには高額なものもあり、医療現場で利用されているにもかかわらず学内での実習、研究が不可能な放射線機器がある。このような状況に対して、最先端医療機器を所有する医療施設で臨床実習を行い、これらに対する知識、技能を修得する。						
授業の到達目標	臨床実習により経験した、それぞれの最先端の放射線技術に関して医療的な側面および学問的な側面より概説できる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【行動目標】</p> <p>臨床の医療現場における実習において、通常医療、先端医療の臨床実習を別けて実施することは実際には状況的に難しい問題である。また診療画像検査、核医学検査、放射線治療の領域によっては、現代においては明確にどこまでを通常医療、先端医療と区別することが容易にできないこともある。</p> <p>そこで博士前期課程では先の「診療画像技術学実習」「核医学検査技術学実習」「放射線治療技術学実習」での臨床実習と、その実施を通常医療、先端医療と区別することなく同様に行い、その知識を有することを目標とする。</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	該当期間に120時間以上の予復習が必要。					
教科書							
参考書							
評価方法	臨床実習への取り組み80%、レポート20%						
その他履修上の注意事項	実習場所: 帝京大学医学部附属、最先端医療機器所有病院 試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						